



専門家にしか理解できない文字や数値の羅列ではなく、誰にでも理解しやすいように可視化する技術に関する研究に取り組んでいます。

略歴

1995年より日本工業大学情報技術センター助手、2007年より日本工業大学工学部情報工学科助手、2008年より同助教、2013年より同准教授。現在は教育工学をベースにした可視化技術の研究に着手している。

所属学会など

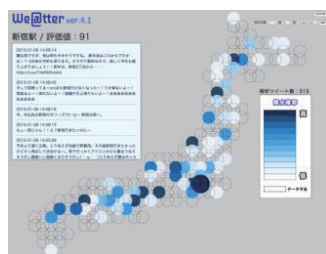
映像情報メディア学会
情報処理学会
電子情報通信学会

研究紹介

ICT技術を活用した可視化技術に関する研究

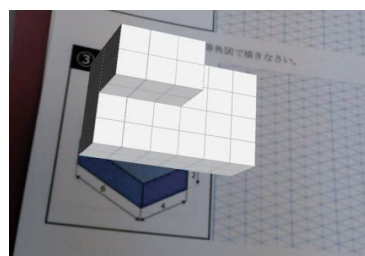
X(旧Twitter)を用いた情報の可視化

インターネットに発信された情報を有効に活用し、「雨予報」を可能にするシステムを提案した。



AR技術を用いた補助教材の開発

拡張現実の技術を用いて、様々な教科の補助教材を開発し、学習意欲を向上させるシステムを提案した。



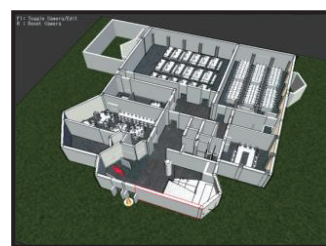
映像補助教材システムの開発

バレットタイム技法を用いて、初心者がケア技術を効率的に学習できるシステムを提案した。



学内ナビゲーションアプリの開発

情報工学科棟をモデリングし、目的に応じてナビゲーションするシステムを提案した。



共同研究の事例

- ・ 介助技術の習得支援教材を板橋口イタル訪問看護ステーションのスタッフと共同で開発
- ・ 地域連携事業「宮代町オリジナル観光マップ」を共栄大と共同で制作

主な論文発表

- 1) 3DCG 映像による介助技術の習得支援教材の開発, 電子情報通信学会総合大会 (2017), 168.
- 2) 地域貢献をテーマとした文理協働PBLの試み, 私立大学情報教育協会, ICT利用による教育改善研究発表論文 (2017).